

農業振興公社だより

発行
社団法人
角田市農業振興公社
TEL63-2328
FAX61-1521

「風の塾」開塾記念フォーラム開催

— あぶくま農学校 —



「ぼくらの田んぼは豊作だ」

農業後継者の育成と、角田農業の次代を担う方々の学習の場として、あぶくま農学校「風の塾」開塾式が十一月十三日、角田駅オークプラザで、開催されました。開塾式は、「食農学習が地域を結ぶ」と題し、記念フォーラム「ぼくらの田んぼは豊作だ」が行われ、食農学習の実践報告をパネルディスカッション形式で行われました。

▲活発な意見が交わされた記念フォーラム

先立ち、塾生十四名が一人ひとり紹介され、各自抱負を語りました。その後、あぶくま農学校の校長であり、農業振興公社理事長の佐藤清吉、角田市長から「風の塾は、この土地に根ざして、次の担い手になろうという方々の研鑽の場であり、スムーズ

ズに角田市の農業の流れの中に溶け込み充実して行えるようにするのが、大きな役割だ。」と祝辞を述べ塾生を励ました。

フォーラムは、コर्टイーネーターとして、「風の塾」塾長の和光大講師小松光一氏、パネリストに装丁家の林佳恵氏、目黒区緑ヶ丘小学校志茂暁子校長先生、みやぎ仙南農協角田地区青年部星智宏部長が参加し開催されました。

フォーラムに先立ち、塾生十四名が一人ひとり紹介され、各自抱負を語りました。その後、あぶくま農学校の校長であり、農業振興公社理事長の佐藤清吉、角田市長から「風の塾は、この土地に根ざして、次の担い手になろうという方々の研鑽の場であり、スムーズ

を青年部のおかげで実施できました。」と報告。

「十二年前にその当時の青年部の役員が、目黒区の小学校に稲作指導をしたことがきっかけで、その後、小中学生の夏休み農村体験やこの頃は、先生の農業体験、栄養土さん方も角田に来ていただくようになりました。」と報告。

林さんからは、自分の子供が酪農家での農業体験を通じての感想で「子供が、五感をフルに使って、最初は臭いものをシャットアウトして、最後には手袋ににおいをしみこませて私に話しかけてきたこと。その農業体験がずうっと残っていて中学卒業後の進路に「農業」と書いたことに嬉しい思いをした。」と話し、自分の身体を使っている体験の大切さを話されました。また、農村部でなぜ、農業体験を学校でするのか、家では、手伝いをさせていなのかと意見が出ました。

また、志茂校長からは、「なぜ、遠い宮城県まで来て農業体験をするのかと言う問いを受けます。これは、豊かな自然はあるし、ものすごい教育者が一杯いると言うことです。苦労させることも大切だと思いい農業体験をすることにしました。」と話され、星部長からは、「子供達に小さな袋に精米した米を持たせて、自宅に行ってから家族の人と角田の話をしながら食べたら、この前学校を訪問した時に、父兄の方からお米が良かったと話された時は、大変感激しました。」と話を受けました。

最後に、小松氏から「中国がWTOに加盟し、今後三年以内に米が輸入される。一般の商品では勝てない。あのお兄ちゃんを作った米だと言うのがあるかないかが重要だろう。」と言う話があり、フォーラムを終了しました。